



西栗倉中学校だより
令和8年9月1日(火) 発行



15の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

(学校教育目標)

未来を拓き たくましく生きる力の育成 ～ 自律 協働 挑戦 ～

(校長雑感)

長い夏休みも終わり、先週から学校に生徒の姿が戻ってきました。生徒の声がする学校は活気があり、元気になります。登校初日には、「宿題やった?」「〇〇は提出日が遅いから、まだできていない」などの会話も聞こえてきましたが、どのような夏休みだったでしょうか。夏休みだからこそできることに挑戦した人もいました。学校内外でも、部活動の大会への参加をはじめ、Nestに協力を仰ぎ、今は使われていない旬の里で「肝試し」を企画したり、環境問題を考えるシンポジウムを企画したり、OKAYAMA 夢サミットに参加した1年生は県内の中高生を前に堂々と自分の意見を発表したりと、様々な活動に取り組んだ生徒もいました。

2学期は、まず「合同運動会」からスタートです。先日の奉仕作業では、夕方とはいえ、まだ残暑が残る中、テント設営にご協力いただきありがとうございました。現在、3年生が中心となり、幼稚園児や小学生とともに運動会を成功させるため、準備を重ねています。現行の保健体育の学習指導要領解説(国が示す授業の基本方針)には、「自己に適した『する、みる、支える、知る』などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付ける」といった表現が何度も出てきます。合同運動会では、自分自身が出場して「する」だけではなく、チーム(学校全体)で「みて」応援したり、同じチームとともに練習をしながらリーダーを「支え」たり、係活動を通して運動会全体を「支え」たり、種目(競技)の良さや奥深さを「知っ」たり、ともに活動する仲間の良さを「知っ」たりする中で、成長することが多くあると考えています。昨年度より「生徒が主体的に活動する運動会を目指そう!」と、生徒、教職員に伝えていきます。ここまでは、3年生を中心に、自分たちでつくる運動会という意識の高まりを感じています。今後、1・2年生も3年生の姿から学ぶことが多くあるのではないかと思います。これらの活動を通して、学校教育目標の達成にも一歩近づくのではないのでしょうか。

さて、生成AIを活用したことがありますか。先日、ある研修で高校の先生が新入生を対象に調査したところ、「生成AIを日常的に利用した経験がある生徒」は、昨年22%だったのが、今年度は一気に75%に増えたと話していました。(使ったことがない生徒は4%だそうです。)あくまである高校の新入生を対象とした調査ではありますが、このように生成AIは、この数年で一気に日常的に使われるようになってきました。本校でも、保護者の方と話をしていると、テスト週間中に生成AIと対話しながら予想問題を作って勉強しているという生徒もいるようです。現在、教職員も、生成AIを授業で活用し、生徒が使いこなせるように研修を重ねています。2学期以降、授業の中で生成AIを活用した授業が増えてくると思います。生成AIについては、レポートや作文を生成AIに任せ、自分で考えることなく作成することで、結果として力がつかないなどの負の面も指摘されています。生成AIを正しく使いこなせる人になるよう、授業でも丁寧に指導していけたらと考えています。